

平成 23 年 2 月 7 日
気 象 庁

気象庁防災情報XML予報関連資料の修正について

○サンプルファイル及び解説資料の差し替え

平成 23 年 1 月 26 日にお知らせした、地方海上予報のサンプルXMLの修正において、「不要な「MeteorologicalInfos type="気象要因"」を削除」を行った結果、現行のかな漢字電文に含まれている、観測時刻がXML電文に含まれなくなってしまうことが判明しました。従いまして、地方海上予報のサンプルXMLから「MeteorologicalInfos type="気象要因"」を削除するのを取りやめることといたします。

「70_13_03_091210_chiho...」 「気象庁防災情報XML予報関連資料の修正について」
「70_13_04_091210_chiho...」 平成 23 年 1 月 26 日 気象庁 2 ページ目
「MeteorologicalInfos...」
Property/SynopsisPart/jmx_eb:Synopsis type="気象要因"」をかな漢字電文の記述
に合わせた。

地方海上予報

「70_14_01_091210_chihouumiyohoul.xml」
「70_14_02_091210_chihouumiyohoul.xml」
「70_14_03_091210_chihouumiyohoul.xml」
不要な「MeteorologicalInfos type="気象要因"」を削除。

この変更を取りやめます。

天気概況

「70_23_02_091210_fukengaikyoul.xml」
「70_23_03_091210_fukengaikyoul.xml」
Body 部の不要な名前空間宣言
「xmlns:jmx_eb="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/elementBasis1/"」を削除

```
<MeteorologicalInfos type="気象要因">  
  <MeteorologicalInfo>  
    <DateTime>2008-02-26T15:00:00+09:00</DateTime>  
    <Name>26日15時</Name>  
    <Item>  
      <Kind>  
        <Property>  
          <Type>概況</Type>  
          <SynopsisPart>  
            <jmx_eb:Synopsis type="気象要因" />  
          </SynopsisPart>  
        </Property>  
      </Kind>  
      <Area>  
        <Name>北海道南方及び東方海上</Name>  
        <Code>1100</Code>  
      </Area>  
    </Item>  
  </MeteorologicalInfo>  
</MeteorologicalInfos>
```

「MeteorologicalInfos type="気象要因"」の内容

また、平成23年1月26日に追加した、地方海上警報のサンプルXML「70_13_05_110126_chihouumikeihou1.xml」も前述と同様の問題があるため、サンプルXMLの差し替えを行います。これらの変更等を反映した、解説資料も差し替え、修正箇所を別紙に掲載します。

```
<Body xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/body/meteorology1/"
xmlns:jmx_eb="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/elementBasis1/"
  <Warning type="地方海上警報">
    <Item>
      <Kind>
        <Name>海上警報解除</Name>
        <Code>00</Code>
      </Kind>
      <Area>
        <Name>関東海域</Name>
        <Code>3000</Code>
      </Area>
    </Item>
  </Warning>
  <MeteorologicalInfos type="気象要因">
    <MeteorologicalInfo>
      <DateTime>2008-07-30T09:00:00+09:00</DateTime>
      <Name>30日09時</Name>
      <Item>
        <Kind>
          <Property>
            <Type>概況</Type>
            <SynopsisPart>
              <jmx_eb:Synopsis type="気象要因" />
            </SynopsisPart>
          </Property>
        </Kind>
        <Area>
          <Name>関東海域</Name>
          <Code>3000</Code>
        </Area>
      </Item>
    </MeteorologicalInfo>
  </MeteorologicalInfos>
</Body>
</Report>
```

MeteorologicalInfos type="気象要因"を追加します。

平成 23 年 12 月 26 日

気象庁予報部予報課

地方海上予報 XML の解説

全体構成

タグ	解説
Report	
└Control	管理部。
├Title	“地方海上予報”と記述する。
├DateTime	発表時刻を“2008-08-29T00:10:00Z”のように協定世界時で記述する。未来時刻にはならない。
├Status	運用状況を“通常”、“訓練”、“試験”のいずれかで記述する。
├EditorialOffice	“札幌管区気象台”、“函館海洋気象台”のように地方海上予報警報を担当する官署名を記述する。ただし、本庁予報課の場合、“気象庁本庁”と記述する。
└PublishingOffice	“札幌管区気象台”、“函館海洋気象台”のように地方海上予報警報を発表する官署名を記述する。ただし、本庁予報課の場合、“気象庁予報部”と記述する。
└Head	ヘッダ部。Head の詳細を参照。
└Body	内容部。Body の詳細を参照

/MeteorologicalInfos@type = “気象要因”の詳細

タグ	解説
MeteorologicalInfos	概況事項を記述する。 要素は1つも記述されない場合がある。
└@type	“気象要因”と記述する。
└MeteorologicalInfo	概況を記述する。
└└DateTime	観測時刻を“2008-08-13T06:00:00+09:00”のように日本標準時で記述する。
└└Name	観測日時を“13日06時”のように記述する。
└└Item	
└└└Kind	
└└└└Property	概況の内容を記述する。
└└└└└Type	“概況”と記述する。
└└└└└SynopsisPart	じょう乱など、警報の要因となっている事項を記述する。
└└└└└└jmx_eb:Synopsis	台風や低気圧などのじょう乱の諸元、前線、あるいは“所々濃霧が発生している”、“気圧の傾きが急になっている”などのように、概況の平文を記述する。 <u>概況がない場合は値(平文)を記述しない(「空タグ」とする)。</u>
└└└└└└@type	“気象要因”と記述する。
└└└Area	地方海上予報区を記述する。
└└└└Name	“四国沖北部”のように概況の対象とする地方海上予報区名を記述する。
└└└└Code	“4030”のように地方海上予報区名に対応する地方海上予報区コード番号を記述する。

VisibilityPart の詳細

タグ	解説
VisibilityPart	視程に関する予報を記述する。
└SubArea	対象となる地方海上予報区または地方海上予報区内の特定海域(地域)に対する海上警報を記述する。
└AreaName	“国後水道”や“沿岸部”など地方海上予報区内の特定海域(地域)を指す名称を記述する。特定海域(地域)ではなく、地方海上予報区そのものの場合は要素を省略する。
└Sentence	“10海里(20キロ) 後 3海里(6キロ)”のように地方海上予報の平文を記述する。
└Base	視程の予報を記述する。視程が変化する場合は、変化前の状態を記述する。
├└jmx_eb:Visibility	“10”、“20”のように視程を記述する。
├└└@type	“視程”と記述する。
├└└@unit	“海里”または“km”のように単位を記述する。
├└└└@description	“10海里”、“20キロ”のように記述する。
├└└└Local	地域的な視程を記述する。地域的な視程がない場合は要素を省略する。
├└└└└jmx_eb:Visibility	“0.3”、“0.5”のように記述する。
├└└└└@type	“視程”と記述する。
├└└└└@unit	“海里”または“km”のように単位を記述する。
├└└└└└@condition	<u>“以下”のように記述する。</u>
├└└└└└└@description	<u>“30. 3海里”、“6キロ以下”、“0. 5キロ以下”</u> のように記述する。
└Becoming	視程の予報で、視程が変化する場合の変化後の状態を記述する。変化がない場合は要素を省略する。
└TimeModifier	“後”のように予報の対象時間を記述する。
└jmx_eb:Visibility	“2”、“4”などのように記述する。

①@type	“視程”と記述する。
①@unit	“km”または“海里”のように単位を記述する。
②@description	“2海里”、“4キロ”のように記述する。
③Local	地域的な視程を記述する。地域的な視程がない場合は要素を省略する。
④jmx_eb:Visibility	“0.3”、“0.5”などのように記述する。
①@type	“視程”と記述する。
①@unit	“海里”または“km”のように単位を記述する。
①@condition	“以下”のように記述する。
②@description	“0. 3海里 以下 ”、“0. 5キロ 以下 ”のように記述する。

例 WindPart の例

例	解説
<pre> <WindPart> <SubArea> <Sentence>南西 20ノット(10メートル) 後 南西又は北西 25ノット(13メートル) </Sentence> <Base> <jmx_eb:WindDirection type="風向" unit="8方位漢字">南西</jmx_eb:WindDirection> <jmx_eb:WindSpeed type="風速" unit="ノット" description="20ノット">20</jmx_eb:WindSpeed> <jmx_eb:WindSpeed type="風速" unit="m/s" description="10メートル">10</jmx_eb:WindSpeed> </Base> <Becoming> <TimeModifier>後</TimeModifier> <jmx_eb:WindDirection type="風向" unit="8方位漢字">南西</jmx_eb:WindDirection> <jmx_eb:WindDirection type="風向" unit="8方位漢字">北西</jmx_eb:WindDirection> <jmx_eb:WindSpeed type="風速" unit="ノット" description="25ノット">25</jmx_eb:WindSpeed> <jmx_eb:WindSpeed type="風速" unit="m/s" description="13メートル">13</jmx_eb:WindSpeed> </Becoming> </SubArea> </WindPart> </pre>	<p>平文で記述。</p> <p>風向は1ないし2つ記述。 風速は単位を変えて記述。 風速は1ないし2組記述。<u>ただし、2組とは、同じ単位でまとめた風速を1組とし、2組記述。</u></p> <p>変化後の予想がある場合に記述(無ければ省略)。</p>

平成 23 年 12 月 26 日
気象庁予報部予報課

地方海上警報 XML の解説

全体構成

タグ	解説
Report	
└Control	管理部。
├Title	“地方海上警報”と記述する。
├DateTime	発表時刻を“2008-08-29T00:10:00Z”のように協定世界時で記述する。未来時刻にはならない。
├Status	運用状況を“通常”、“訓練”、“試験”のいずれかで記述する。
├EditorialOffice	”札幌管区气象台”、“函館海洋气象台”のように地方海上予報警報を担当する官署名を記述する。ただし、本庁予報課の場合、“気象庁本庁”と記述する。
└PublishingOffice	”札幌管区气象台”、“函館海洋气象台”のように地方海上予報警報を発表する官署名を記述する。ただし、本庁予報課の場合、“気象庁予報部”と記述する。
└Head	ヘッダ部。Headの詳細を参照。
└Body	内容部。Bodyの詳細を参照。

Body の詳細

タグ	解説
Body	
└Warning	警報事項を記述する。
└@type	“地方海上警報”と記述する。
└Item	
└Kind	
└Name	“海上暴風警報”のように海上警報名を記述する。ただし、担当海域の全てにおいて海上警報を解除する場合は、“海上警報解除”と記述する。
└Code	“12”のように海上警報名に対応する海上警報コード番号を記述する。
└Property	各警報事項について記述する。ただし“海上警報解除”の場合は省略する。
└Type	“風”、“濃霧”、“うねり”、“着氷”のいずれかを記述する。
└WindPart	風に関する警報を記述する。WindPart の詳細を参照。
└VisibilityPart	海上濃霧警報を記述する。VisibilityPart の詳細を参照。
└WaveHeightPart	海上うねり警報を記述する。WaveHeightPart の詳細を参照。
└IcingPart	海上着氷警報を記述する。IcingPart の詳細を参照。
└Area	地方海上予報区を記述する。
└Name	“関東海域南部”のように地方海上警報の対象となる地方海上予報区名を記述する。
└Code	“3020”のように地方海上予報区名に対応する地方海上予報区コード番号を記述する。
└MeteorologicalInfos	気象状況を記述する。MeteorologicalInfos の詳細を参照。 省略されることがある。

WindPart の詳細

タグ	解説
WindPart	風に関する警報を記述する。
└SubArea	対象となる地方海上予報区または地方海上予報区内の特定海域(地域)に対する海上警報を記述する。
└AreaName	“国後水道”や“沿岸部”など地方海上予報区内の特定海域(地域)を指す名称を記述する。特定海域(地域)ではなく、地方海上予報区そのものの場合は要素を省略する。
└Sentence	“関東海域南部では 南又は南西の風が次第に強まり 今後6時間以内に 最大風速は50ノット(25メートル)に達する見込み”のように地方海上警報の平文を記述する。
└Base	卓越風の実況または変化前の状態を記述する。
└jmx_eb:WindDirection	風向を“北西”のように記述する。 風向を記述しないときは要素を省略する。
└@type	“風向”と記述する。
└@unit	“8方位漢字”と記述する。
└jmx_eb:WindSpeed	“50”、“25”のように風速を記述する。ただし、値を記述せず(「空タグ」とする場合)、予報の対象時間と予想を記述するとき(風が次第に強まる場合)は、@condition に“次第に強まる”を記述する。
└@type	“最大風速”または“風速”のいずれかを記述する。風速の値を記述するときは“最大風速”と記述する。風速の値を記述しない(「空タグ」とする)ときは“風速”と記述し、@condition に“次第に強まる”を記述する。
└@unit	“m/s”または“ノット”のように単位を記述する。
└@condition	必要時、卓越風の状態について“次第に強まる”を記述する。
└@description	“50ノット”、“25メートル”、“次第に強まる”のように記述する。
└Becoming	風の予想を記述する。警報事項が実況のみの場合は省略される。

TimeModifier	“今後6時間以内に”、“今日夕方から”のように予報の対象時間を記述する。
jmx_eb:WindDirection	風向を“北西”のように記述する。 風向を記述しないときは要素を省略する。
@type	“風向”と記述する。
@unit	“8方位漢字”と記述する。
jmx_eb:WindSpeed	“65”、“35”のように風速を記述する。ただし、値を記述せず(「空タグ」とする場合)、実況と予報の対象時間に値を記述するとき(風が次第に弱まる場合)は、@condition に“次第に弱まる”を記述する。
@type	“最大風速”または“風速”のいずれかを記述する。風速の値を記述するときは“最大風速”と記述する。風速の値を記述しない(「空タグ」とする)ときは“風速”と記述し、@condition に“次第に弱まる”を記述する。
@unit	“m/s”または“ノット”のように単位を記述する。
@condition	必要時、卓越風の状態について“次第に弱まる”と記述する。
@description	“65ノット”、“35メートル”、“次第に弱まる”のように記述する。
Remark	「突風に注意」など、付加事項を記述する。付加事項がない場合は要素を省略する。

WaveHeightPart の詳細

タグ	解説
WaveHeightPart	うねりに関する警報を記述する。
└SubArea	対象となる地方海上予報区または地方海上予報区内の特定海域(地域)に対する海上警報を記述する。
└AreaName	“国後水道”や“沿岸部”など地方海上予報区内の特定海域(地域)を指す名称を記述する。特定海域(地域)ではなく、地方海上予報区そのものの場合は要素を省略する。
└Sentence	“檜山津軽沖では うねりが高く うねりの高さは10メートル 今後18時間以内に 13メートル”のように地方海上警報の平文を記述する。
└Base	うねりの実況または変化前の状態を記述する。
└jmx_eb:WaveHeight	“8”、“10”のようにうねりの高さを記述する。ただし、値を記述せず(「空タグ」とする場合)、予報の対象時間と予想を記述するとき(うねりが次第に高くなる場合)は、@condition に“次第に高くなる”を記述する。
└@type	“うねりの高さ”と記述する。
└@unit	“m”のように単位を記述する。
└@condition	必要時、うねりの状態について“次第に高まる高くなる”と記述する。
└@description	“9メートル”、“13メートル”、“次第に高まる高くなる”のように記述する。
└Becoming	うねりの予想を記述する。警報事項が実況のみの場合は省略される。
└TimeModifier	“今後24時間以内に”のように予報の対象時間を記述する。
└jmx_eb:WaveHeight	“8”、“10”のようにうねりの高さを記述する。ただし、値を記述せず(「空タグ」とする場合)、実況値と予報の対象時間を記述するとき(うねりが次第に収まる場合)は、@condition に“次第に収まる”を記述する。
└@type	“うねりの高さ”と記述する。

Meteorological Infos の詳細

タグ	解説
MeteorologicalInfos	概況事項を記述する。
└@type	“気象要因”と記述する。
└MeteorologicalInfo	概況を記述する。
└DateTime	観測時刻を“2008-08-11T06:00:00+09:00”のように日本標準時で記述する。
└Name	観測日時を”11日06時”のように記述する。
└Item	
└Kind	
└└Property	概況の内容を記述する。
└└Type	“概況”と記述する。
└└SynopsisPart	じょう乱など、警報の要因となっている事項を記述する。
└└└jmx_eb:Synopsis	台風や低気圧などのじょう乱の諸元、前線、あるいは“所々濃霧が発生している”、“気圧の傾きが急になっている”などのように、概況の平文を記述する。 概況がない場合は値(平文)を記述しない(「空タグ」とする)。
└└└@type	“気象要因”と記述する。
└Area	地方海上予報区を記述する。
└Name	“日本海北部及びオホーツク海南部”のように概況の対象とする地方海上予報区名を記述する。
└Code	“1000”のように地方海上予報区名に対応する地方海上予報区コード番号を記述する。

例 SealcePart の例

例	解説
<pre> <lcingPart> <SubArea> <Sentence>サハリン東方海上では 弱影响着氷の恐れがある</Sentence> <Base> <jmx_eb:lcing type="着氷の程度" description="弱影响着氷">弱い</jmx_eb:lcing> </Base> </SubArea> </lcingPart> </pre>	<p>実況の場合。</p> <p>平文を記述。</p> <p>着氷の程度を記述。</p>
<pre> <lcingPart> <SubArea> <Sentence>サハリン東方海上では 後 並みの着氷の恐れがある</Sentence> <Base> <jmx_eb:lcing type="着氷の程度" condition="次第に強まる"/> </Base> <Becoming> <TimeModifier>後</TimeModifier> <jmx_eb:lcing type="着氷の程度" description="並みの着氷">並</jmx_eb:lcing> </Becoming> </SubArea> </lcingPart> </pre>	<p>予想で<u>次第に強まる</u>後現象が発現する場合。</p> <p>平文を記述。</p> <p>実況予想の値のみなので、<u>/Base</u> は記述せず、「<u>次第に強まる</u>」を記述省略。</p> <p>予報の対象期間を記述。</p> <p>着氷の程度を記述。</p>
<pre> <lcingPart> <SubArea> <Sentence>サハリン東方海上では 並みの着氷の恐れがあるが 今後 1 2 時間以内に 次第に弱まる見込み</Sentence> <Base> <jmx_eb:lcing type="着氷の程度" description="並みの着氷">並</jmx_eb:lcing> <Becoming> </pre>	<p>予想で次第に収まる場合。</p> <p>平文を記述。</p> <p>着氷の程度を記述。</p>